



再生医療研究や視覚障がい者支援等で眼科領域をリード

眼科に関する総合的支援を提供

神戸市立神戸アイセンター病院は、眼科疾患の標準治療から最先端高度治療、ロービジョンケア（視覚障がいがある方への生活支援）、新しい治療の研究をトータルに行う、日本で唯一の公的な眼科専門病院です。2017年に開院してから、眼科医療の様々な分野のスペシャリストたちが地域の眼科診療施設と連携しながら、主に成人を対象としたあらゆる眼科疾患の治療に励んでいます。また、職員が一丸となり、ホスピタリティにも注力。入院患者さんへの満足度調査では、4年連続100%を達成しています。スマホで診察待ちの状況を確認できるサービスも提供しており、外来患者さんに好評をいただいています。

院内2階にある「ビジョンパーク」では、視覚障がいがある方の日常生活や社会復帰を支援。見えない、見えにくいことで起こる情報不足への不安やコミュニケーションの困難をカバーし、リハビリや就労支援などを行っています。クライミングウォールを備えた開放的な空間や、視覚障がいに関する情報提供などのサービスは、一般の方も利用することができ、人々の交流の場にもなっています。



ビジョンパーク エントランス風景

再生医療で世界の患者さんを救う

同院が担う大きな使命の一つが、眼科疾患における再生医療の研究と開発です。アイセンター病院の

前身である神戸市立医療センター中央市民病院眼科と先端医療センター病院眼科の時代から長年に渡り、理化学研究所と共同でiPS細胞治療の臨床応用など最先端の研究開発を推進してきました。近年では、滲出型加齢黄斑変性や網膜色素変性症といった難病に対し、iPS細胞を応用した世界初の移植手術に成功しています。栗本康夫院長は「iPS細胞の移植はまだ本格的な実用化前。私たちが推進している再生医療の実用化を加速させて世界に広げ、1日も早く治療法のない眼の病気に苦しむ患者さんへ希望を届けたい」と力強く語ります。また、いち早く遺伝子治療の研究にも着手し、患者さんの生活の質の向上や眼科医療の発展のために研鑽を重ねています。

「神戸市は当院の取り組みに大変協力的で、さまざまなバックアップを得られるのは非常にありがたいこと。神戸医療産業都市内の関連機関とさらに緊密な連携を取りながら、多くの期待に応えられるよう、積極的に新しいチャレンジを続けたい」と意欲を示す栗本院長。その歩みに世界が注目しています。

Message

病院長
栗本 康夫 氏



当院では、世界最高の眼の治療やケアを患者さんに届けるため、日々努力を重ねています。また、その成果をまずは神戸市医療圏の患者さんにいち早く享受していただきたいと考えています。市民の皆さまには、神戸市に神戸アイセンター病院が存在することを誇りに思っただけのよう、より高みを目指していきたいと思えます。